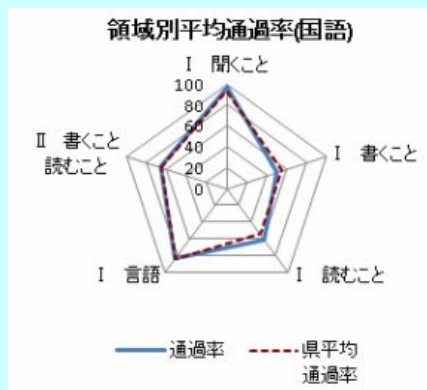
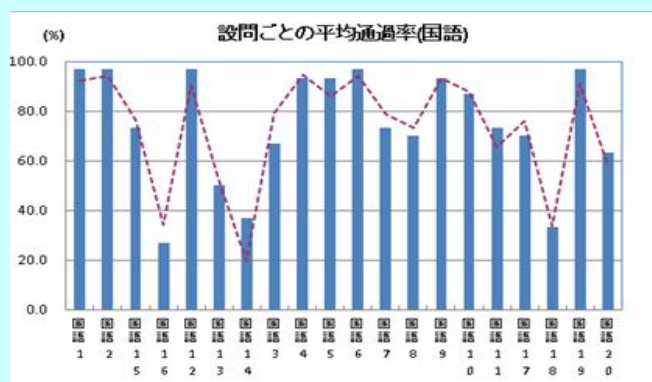


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 74.3%, 県 73.6%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向

国語の結果において、タイプⅠの通過率は 76.5%である。その内「聞くこと」(96.7%)と「言語」(83.0%)の領域はおおむね力はついているが、「書くこと」(50.0%)と「読むこと」(61.1%)の領域の通過率が低い。「書くこと読むこと」の複合的な力が試されるタイプⅡの通過率は 65.8%であり、全体として「書くこと」「読むこと」に課題が見られた。

○昨年度の課題への取組の成果

昨年度は、文語のきまりに関する問題が県平均を 16%下回った。古語の意味を書いている生徒が多かったため、問題の意味も含めて丁寧な指導に取り組んだ。結果として「文語のきまり」の通過率が 93.3%と高まった。

重点課題

【課題1】二つの内容が含まれた文章を条件に従って二文に分ける問題(書くこと通番 16「叙述の仕方の確認」)について、条件を満たした記述ができていない。本校の通過率 26.7% (県通過率 34.3%)

【課題2】複数の資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事実を明確に記述する問題(タイプⅡ通番 20「情報の取り出し・伝えたい事実を明確にした記述」)について、「説明を支える根拠が書けていない」「必要な情報を取り出せない」という課題が見られる。本校通過率 33.3% (県通過率 58.5%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】「主語を補う」という指示内容を理解していない生徒が多いため、文法に関するきまりや基礎的事項を押さえた指導を行う。また、問題文をよく読むことを習慣づける。

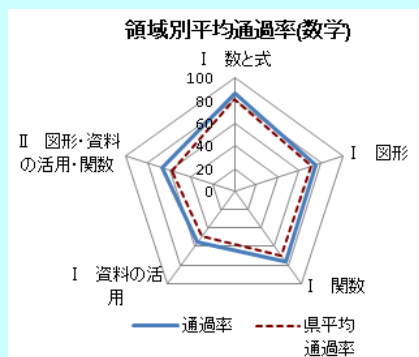
【課題2】説明的文章や情報をあつかう単元において、「この説明に必要な根拠情報はどれか」或いは「この情報からどのような主張が導けるか」といった主張(説明)とその根拠となる情報を正しく対応させていく指導を、複数回仕組んでいく。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	2年生 H27 基礎・基本		1年生 H27 基礎・基本	1・2年生 期末試験			2年生 H27 全国学力
目標値	60%		60%	70%			70%
実施後数値							

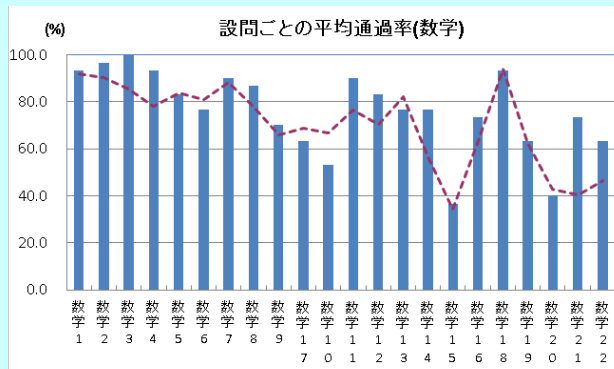
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年生 H27 基礎・基本	1年生 H27 基礎・基本		1・2年生 H27 基礎・基本2回目	
目標値			50%	50%		75%	
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 76.2%, 県 70.4%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向

タイプⅠの通過率は79.0%, タイプⅡの通過率は66.7%であった。また, 無答率がタイプⅠでは平均0.4%, タイプⅡでは平均0.7%である。この結果から基礎的・基本的な内容については概ね定着が図られていると思われ, 無答率も低い。領域別に見ると, 数と式の通過率85.3%, 図形の通過率75.6%, 関数の通過率76.7%, 資料の活用の通過率55.0, 図形・資料の活用・関数66.7%であった。資料の活用についての知識・理解が不十分である。

○昨年度の課題への取組の成果

全体的には向上傾向だが, 資料の活用が弱い。数学的な表現を用いて相互に説明しあう活動を仕組, 無答率が下がった。

重点課題

【課題1】

〔7〕(1) 表から中央値を求める問題で, 中央値を正しく捉えていない生徒が37%。(通過率36.7%)

【課題2】

〔10〕資料の傾向を捉え, 判断した理由を正しく選択する問題で, ヒストグラムと文章の関連を正しく読み取れず誤った選択をした生徒が60.0%(通過率40.0%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】

資料の活用について, 重要用語とその概念の定着を図るため, 学習の終了後も家庭学習等で定期的に資料の活用に関する問題に取り組ませる。

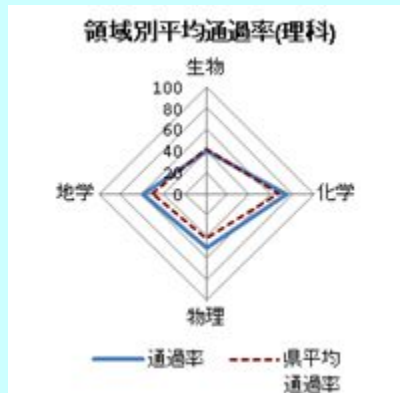
【課題2】

資料の活用について学習する場面で, 総度数の異なる2つの資料の傾向を比較する適切な教材を提示し, 数学的な表現を用いて相互に説明しあう活動を仕組む。

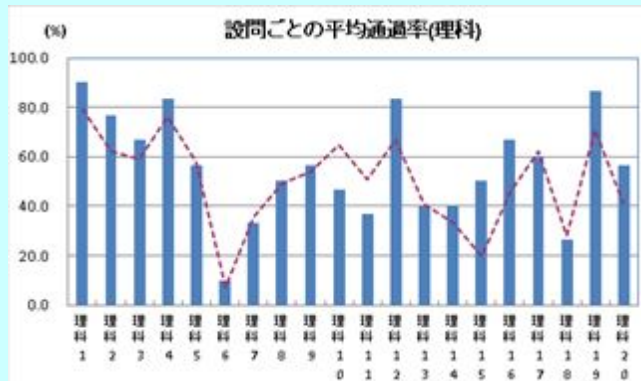
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年・H27 基礎基本7(1)		2年・市学力到達度検査 資料の活用技能問題		1年・H27 基礎基本7(1)
目標値			60%		50%		60%
実施後数値							
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				2年・H27 基礎基本10		2年・H27 全国B5(2)	1年・H27 基礎基本10
目標値				60%		50%	60%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 55.8%, 県 50.2%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向
 タイプⅠは、生物 30.0%、化学 83.3%、物理 38.9%、地学 57.8%の通過率であった。この結果から化学、地学分野の基礎的・基本的な内容はおおむね定着が図られている。一方、生物、物理分野では、実験観察の技能などが十分身につけていない状況がある。
 タイプⅡは、生物 53.3%、化学 61.7%、物理 66.7%、地学 61.7%の通過率であった。全ての分野で、活用力は概ね定着もしているようである。しかし、生物分野で目的に応じて事象を比較する等、科学的に思考する力が十分身につけていない。
- 昨年度の課題への取組の成果
 昨年度は、地学分野の推論問題と、化学分野の用語を用いて実験方法を説明する問題に課題があった。実験・観察の結果・考察等のレポート充実を図った。しかし、生物分野等で目的を踏まえた実験結果の適切な考察がまだ、十分できない等の課題が残った。

重点課題

【課題1】

- 光合成が葉の緑色の部分で行われることを確かめるための実験について、比較する部分を考える等、目的に応じて実験計画をたてる問題に課題がある。本校の生徒の通過率 46.7%。(県通過率 65.0%)

【課題2】

- 凸レンズを用いてスクリーンに実像を写すときの「ろうそく」、「凸レンズ」、「スクリーン」の位置関係を問う問題に課題がある。本校の通過率 36.7% (県通過率 66.6%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

- 観察・実験を行う際に、なぜその操作が必要なのか、また別の方法など、目的に応じて科学的な見通しを持って行うよう指導する。また、目的を意識し、予想と比較しながら、結果を考察するよう指導していく。

【課題2】

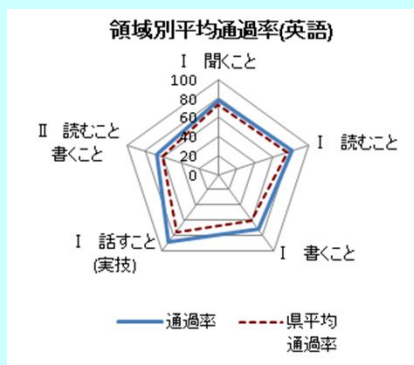
- 凸レンズを用いた実像ができる条件を、日常生活にある事象を関連させながら、理解させる。その際、作図の方法なども合わせて丁寧に指導する。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	1・2年生復習テスト			2年生 H27「基礎・基本」		1年生 H27「基礎・基本」	1・2年生 学年末試験
目標値	60%			65%		55%	65%
実施後数値							

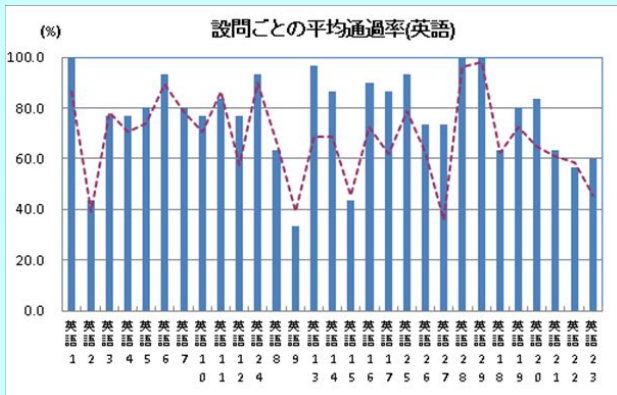
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	2年生復習テスト		1年生 単元末評価問題	2年生 H27「基礎・基本」			1・2年生 学年末試験
目標値	60%		70%	70%			65%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 76.8%, 県 68.2%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○英語科の結果において、タイプⅠは79.1%、タイプⅡは67.8%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な知識はある程度定着しているが、英文を読んだり書いたりする活用の力が定着していないと考えられる。また、各技能においては、読むこと書くことが67.8%と最も低いので、改善していく必要がある。

○昨年度は長文の読み取りに課題が見られたため、語彙力やドリル学習に取り組んできた。その結果、短い文での情報抽出問題には対応できるようになってきたが、まとまった量の英文を読んで内容を理解し、適切な情報を取り出す問題にはまだ課題がある。

重点課題

- 【課題1】 基本的な文のきまりを理解した英作文 (本校通過率33.3% 県通過率39.3%)
What で始まる英文で What animal do you like? と正しく作文ができていない。
- 【課題2】 会話の場面に応じて、適切に英文を書く (本校通過率43.3% 県通過率45.6%)
主語が三人称単数現在形の時、否定文を正しく書くことができていない。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

- 【課題1】
- 語彙力をつけるために、帯学習で単語インプットと単語テストを行う。
 - 英会話カードで英語を話す機会を増やし、疑問文を使う機会を増やす。
 - 疑問詞を使った英文とその応答を会話練習で多く取り入れる。
- 【課題2】
- 授業中に英文を読んだり書いたりする時、主語は何かを意識させる。
 - 基本文のインプットや暗唱テストを行い、語順の知識をつける。
 - 三人称を主語とした英文を書く機会を増やし、動詞の変化を考える機会を増やす。

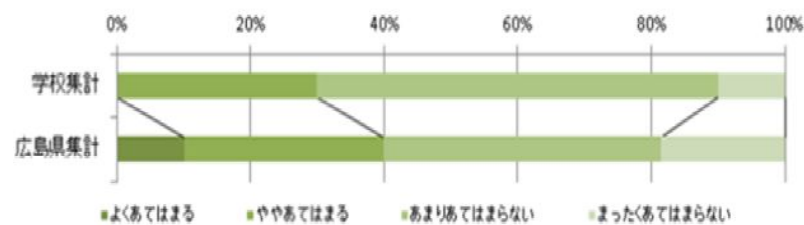
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年生中間試験		2年生期末試験			2年生学年末試験
目標値		50%		60%			70%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年生中間試験		2年生期末試験			2年生学年末試験
目標値		50%		60%			70%
実施後数値							

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）

(1) 生活・学習

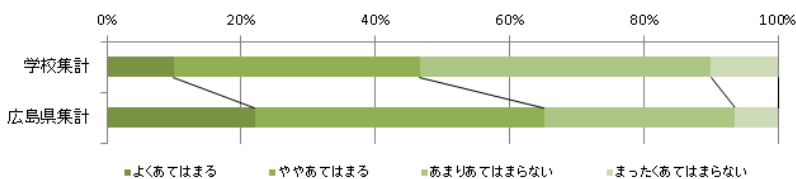
学校の授業の予習をするようにしています。



生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
学校の授業の予習について、取り組んでいる生徒が約3割で、残りの7割の生徒はあまりできていない。復習に関しては、自主学習ノートやルーティンチェック表等の取り組みで、6割弱の生徒ができています。予習の仕方について、指導の充実が必要である。	朝の自主学習（教科書を読む）の意味（予習）を生徒に意識させる。自主学習ノートを利用して、予習に取り組ませる。事前に予習の仕方、形を教えて取り組ませる。予習したことが、授業で発揮できるような授業改善に取り組む。	2	55%	生徒アンケート調査	12月		

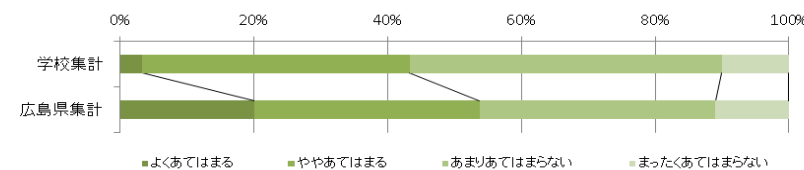
(2) 教科

国語の授業では、伝えたいことの方がうまく伝わるように、話の組み立てを考えて話したり、話の中心を考えながら聞いたりしています。

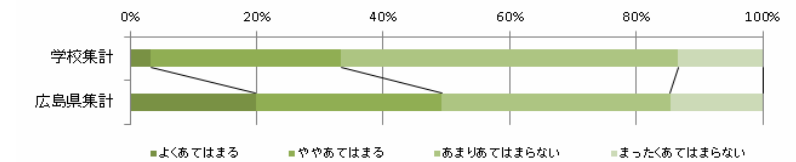


	生徒の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	「国語の授業では、伝えたいことの方がうまく伝わるように、話の組み立てを考えて話したり、話の中心を考えながら聞いたりしています。」 (46.7%)	伝えたいことの方をしっかりと、分かりやすく伝えるように話す活動や、相手の話の要点をまとめさせる活動を仕組む。	2	60%	生徒アンケート調査	12月		
数学	「数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。」 (43.3%)	説明の話型を示し、自分の考えを数学的な表現を用いて相互に説明しあう活動を仕組む。	2	60%	生徒アンケート調査	1月		
理科	授業中に自分の考えを説明したり発表したりする生徒は33.3%である。 (49.3%)	実験や観察の結果や現象について、自分の考えを科学用語を用いて説明・発表などさせる。又、考えをレポートにまとめさせる活動を仕組んでいく。	2	60%	生徒アンケート調査	12月		
英語	「英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、メモを取ったり、感想や意見などを話したり書いたりしています。」 (43.4%)	英文を聞いたり、本文読解をする際に、内容をつかむ問だけでなく、深く考えることのできる問いをする。自分の意見を話したり書く場面を持つ。	2	60%	生徒アンケート調査	1月		

数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



英語の授業では、メモを取ったり、感想や意見などを話したり書いたりします。

